

発行者 中央大学学員会白門58会支部

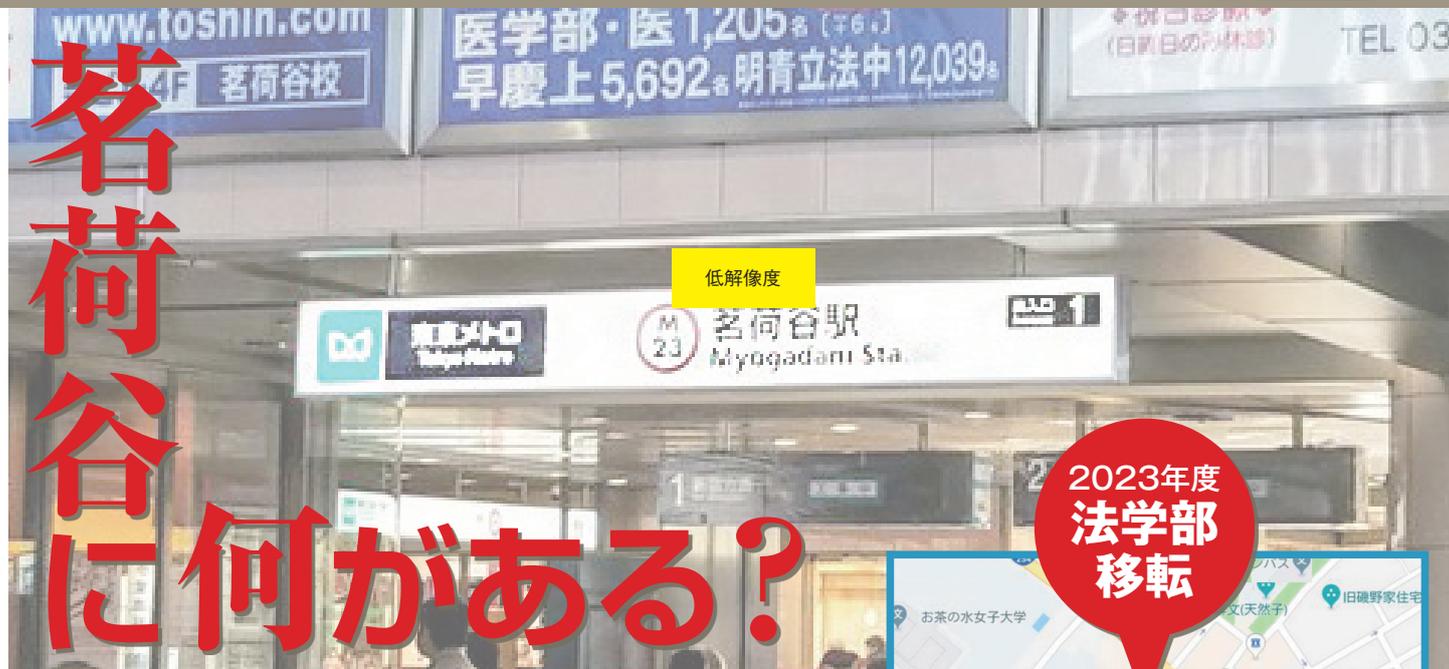
東京都新宿区高田馬場2-14-6 アライビル7階 コンサルファーム有限会社 内

<http://chuo58.com/>

白門58



検索



我らが中央、どこに行く？

懸案とされた都心移転について、文京区大塚1丁目(丸ノ内線茗荷谷駅)に新校地を確保し、法学部移転が確定する見通しとなりました。移転目標は2023年度。



多摩世代は思う……
都会に出れば学生が集まるのか
都会に出ればレベルが上がるのか
都会に出るお金はあるのか
多摩だからダメなのか
多摩はどうなるのか
多摩で何をしてきたのか

移転決定先は東京都交通局が所有し都営バスの車庫に利用していた文京区大塚1丁目。事業用定期借地権としての入札で落札したもの。東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅近くの約7,200平方メートル。現在はフェンスに囲まれた更地。敷地の北側は春日通りに面し、西側に跡見学園、東側にアトラスタワー茗荷谷が隣接。近隣にはお茶の水女子大、拓殖大学、筑波大東京キャンパスなどがある文教地区。

ここに法学部が移転。全学年が収容しきれない場合は、隣の駅の後楽園校舎に一部の学年が収容されるという。詳細については、今後確定ごとに順次、大学のホームページや学員時報で報じられるので、本会ホームページに転載していく。



INTERVIEW

同期・同窓
インタビュー多摩移転から40年超
静止画的な総括ではなく
動画の総括を

白門58会は、1983年卒業の同期で、前法学部長の中島康予（なかじま・やすよ）法学部教授に特別インタビューを行った。学生時代の思い出、大学への思いなど、同期同士ならではの熱い本音トークとなり、2時間にわたりざっくばらんに語ってもらった。（聞き手は、白門58会支部長・内山勢、同事務局長・中川順一）

中央大学法学部教授

中島 康予 氏

昭和58年法学部法律学科卒



【略歴】 なかじま・やすよ 東京都出身。1959年生まれ。1983年中央大学法学部法律学科卒業。1986年中央大学大学院法学研究科博士前期課程政治学専攻修了。1989年中央大学大学院法学研究科博士後期課程政治学専攻退学（単位取得）。中央大学法学部助手・助教授を経て、2000年より教授。中央大学副学長（2017年11月～18年5月）、中央大学法学部長（13年11月～17年10月）などを歴任。現在の研究課題は、フランス政治を対象に、制度や政策の変化・変更を言説分析を通して明らかにするとともに、そのための比較政治の方法を探ることにある。

主要著書・論文に「福祉国家再編をめぐる言説政治分析のための予備的考察」（『法学新報』115巻9・10号、2009年）、『日本の政治学』（大塚桂編著、法律文化社、2006年）、『フランスにおける福祉国家再編の『新しい政治』』（古城利明編著『世界システムとヨーロッパ』中央大学出版部、2005年）などがある。

トンネルを走って帰った学生時代

——法学部法律学科に進学したのに、法曹界ではなく政治学に関心を持った理由は？

中島 最初から政治学に興味をもったわけじゃないんです。元々父が中大の法学部出身で、私が弁護士になりたいというのは知っていました。ただ、最初から司法試験の勉強団体に入ってガツガツやるのはよくない、より広くいろんな科目をとって勉強した方がいいとアドバイスをしてくれたんですね。それで、学部1年のときに、「法学」ではなく「社会科学概論」を履修したんです。その科目を担当していらしたのが、後に大学院で最初の指導教授として受け入れてくださった小林丈児先生だったんです。そのときの参考書のなかで紹介されていた、フランスのアルチュセールの国家論を日本語で読んで、政治学も面白いなあと。

——サークルには入らなかったのですか。

中島 陶芸研究会に入りました。まず最初に、きくねり、の練習をするんです。土から空気を出す作業です。わりとうまくできたし、ロクロで形をつくるのも直ぐにできてうれしかったんです。ところが、サークルをやっていると家に帰れない。JR八高線の箱根ヶ崎駅からさらにバスに乗り継いで、というところにある自宅から片道2時間くらいかけて通っていたんですけど、終バスが夜の9時台の前半。5限にフランス語の必修が

あって、終わったらトンネルを走って降りていかないと終バスに間に合わない。箱根の山下りのプロになれそうだったんですが、ゆっくりサークル活動ができなくて。それで、サークルは1カ月でやめちゃいました。きくねりやってロクロを回して楽しくて続けたかったんですが。



ヒルトップ隧道

ベルばら世代、憧れのフランスへ

——フランスに留学されていたこともありますね。

中島 ありがたいことに、大学院を出て中央大学に助手として就職しました。助手試験は受かるとは思っていなかったので、大学院に籍をおいたまま留学したらよいと指導教授の古城利明先生からも言われて、そのつもりでいました。それが予想外の採用になって、助手論文を2年間で仕上げる必要があります、それを優先させなければなりません。タイミングが遅くなりましたけれど、中央大学には在外研究という制度があって、それで行きました。フランスにいるあいだに父が亡くなっ

て、そして母が入院したりと、いろいろありました。パリにあるフランス国立政治財団国際学術研究所に受け入れ機関になってもらい、比較的やりたいようにやらせてもらいました。資料集めたり、インタビューしたり、と。インターネットが発達する以前ですから、資料に直接アクセスできる機会というのは、やっぱり貴重な機会でした。

日常生活では、メトロより景色が見られるので、割とバスに乗るのが楽しかったですね。1995年の冬には1カ月を超える公共交通機関のストライキがあって、どこに行くにも歩く、という経験もしました。当時のフランス人はそうしたストライキにも理解を示していて、結構楽しんでいたように思います。最近人気のパクチャーの味を知ったのもフランスですね。祖国を逃れたベトナム人たちが店を開いていて、フォーを堪能したのもパリでした。

——やっぱりフランスが好き？

中島 ある種世代ですけど、「ベルサイユのばら」世代。フランス革命に関する本を読んだりしてフランスは身近な存在だったのと、浪人しているときに文化人類学に若干興味を持って、文化人類学をやるとしたら、フランス語を読めたらいいのかなあと第二外国語にフランス語を選択しました。

在外研究の後も何度かフランスに行きましたが、想定していたより行けなくなってしまいました。もっと頻繁に行くつもりでフランスの銀行口座も作っていたんですけど、それを使うチャンスもないまま、国庫に没収されそうになって慌てて解約しました。

法学部単峰型ではなくて多峰型へ

——中島さんは法学部長をされていましたが、中大は法学部が看板学部。でも、今だにそれにこだわり過ぎているOBがすごく多い。「中央法科は一流だ」って。でも、いつまでもそれでいいのかと思いますが。大学内の教職員の立場ではどうお考えですか。

中島 駿河台時代の卒業生の方は、どうしても司法試験と箱根駅伝を気にされます。評議員会では、司法試験・箱根駅伝・硬式野球の3点セットが定番のテーマで、どれもダメになっている、どうするつもりなんだってお叱りをうけます。総合大学ですから法学部やロースクール以外の学部や大学院の長が質問対応で控えているのですが出番がほとんどない。

リクルートのブランド力調査では、中大のイメージは「資格に強い」。その看板を下ろすことはないと思います。でも、それだけじゃ大学の魅力にはなりませんよね。私は中大のあるべき姿は多峰型、富士山のような単峰型ではなくて、多峰型でつながっているイメージが良いと思います。よく比較される明治大学は、何学部というのはなくて、明治大全体でさまざまな取り

組みを展開しています。中大ももっとそのような大学をめざす必要があると思いますね。

国際経営学部と国際情報学部という新しい学部がつくられますが、あれは学部じゃなく学科でいいんじゃないかという声もあるようですが、受験産業の人、コンサルからは「学科だと見えない」と言われます。学部として見えないといけないと。評価はいろいろあると思うんですが、大学が何か改革に取り組んでいるというのがないと受験生の募集で厳しい。そういうことから新学部設立だと言えます。いずれにせよ、1993年の総合政策学部新設以来ですから、新学部は26年ぶりです。

移転後、何をして何をしてこなかったのか

——僕たちの世代は移転直後ですから、多摩がダメだから都心へという発想には抵抗があります。多摩移転についても大学としてはきちんと総括していないようだから、都心移転もまた同じではないかと思います。

中島 「中大は多摩キャンパス」というイメージはすごく強い。多摩近辺など郊外にキャンパスを持っている大学でも、本部は都心にある例が多い中で、中大は本部も多摩キャンパスに移しましたからね。理系を志望する高校生・受験生を対象にしたアンケートでも、中大は「通いにくいところにある」という答えが返ってくる。それほど多摩の大学というイメージが強烈なんだとビックリしたことがあります。

大学キャンパスのあり方を考えるとき、「多摩移転から何をできて何をしてこなかったのか」ということを丁寧に整理して評価する必要があるのではないかと思います。私は「総括」という言葉があまり好きではない、というか適切ではないなあ、と。

「総括」というと何だか点として捉えられた時間にばかり目が行ってしまう。1978年の移転した時間に遡るのではなくて、78年からこれまで中大は何をして何をしてこなかったのかを線のなかで総括ができないといけない。

環境も変わってきていますし、学生たちも変わってきているので、静止画的な総括ではなくて動画の総括をしなければいけないと思います。

学生との付き合いが一番救われる

——大学の仕事をしている時で、一番楽しいことはどんなことですか？

中島 私に限らずよく先生方の多くがおっしゃるのは、会議や学内の問題処理ではストレスがたまるだけ。けれども、学生と付き合っていると一番救われるというか、楽しい。学生が学んで成長していく姿をみることは、なんか未来につながることをしている感じがしますね。

2018年度までのゼミでは「セキュリティの政治」というテーマを掲げていました。最終的に2万字ぐらいの論文を仕上げていきます。論文のテーマは「セキュリティ」のどこかにフックがかかっていけば構わない。ですので、学生たちのテーマはいろいろですね。日米の安全保障の話から、監視社会、最近では外国人労働者が増えて治安の問題とかいろいろです。ただ、論文を書かせるゼミはいくつかあるんですが、学生たちが「ガチゼミ」って言って敬遠するみたいなんですよね。とにかく楽しくみんなでワイワイできるゼミには学生が集まる。教員は皮肉ってエンタメ系ゼミって言っています(笑)。ガチなゼミは嫌われますね。私のゼミもゼミ員は少ないですね。

論文を書ける時期って学生時代にしかないから、自分で課題を設定し調べたり文献を読み込み、まとめた文章としてアウトプットしていく作業は、きっとどこかで役に立つと言うんですけれど。政治学系のゼミはゼミ論の優秀なものを表彰するというのを続けていますが、そういう学生を表彰する、顕彰しようということは地道にやっていきたいと思います。ゼミの学生が書いた論文が出来がよくて、私だけでなく審査委員の人たちに評価されるのが、すごくうれしいです。



やっぱり、中大が好き

——ストレートに聞きますが、中島さんは中大は好きですか？

中島 好きですね。結局好きなんだと思います。早稲田や慶応のOBOGみたいに中大、中大ってならないところが性に合っている感じがします。研究で調査に行ってお目にかかったり、大学関係の仕事でいろんなところに行ってお話をし、最後、帰り際になってはじめて「実は私は中大って」言われることがあります。控えめというか、変なカタマリ方をしないのが「中大らしさ」。そういうのって、実は嫌いじゃないな。でも一方で、それじゃだめだとも思うこともありますけれど。

——いま、一番やりたいことは？

中島 とにかく研究をやりたい。2019年度は研究に専念できることになりました。法学部長時代は、ちょうど中期事業計画を立てているときで、会議ばかりでした。学部長やめて楽になりましたかと聞かれることがありますが、それはそれは楽になりました。金井法学部長時代に学部長補佐をしていたときに、学部長の仕事ってトラブル処理係だなあと考えていて、実際、そうだったのですが、そういうことがなくなったので、肉体的にも精神的にも楽になりましたし、研究の時間も少し取れるようになりました。研究者脳を作り直すリハビリ中です。

学部の委員会から解放されて、今は全学のダイバーシティ推進の仕事にかかわっています。中大は圧倒的に男子学生が多い大学だった。私が入学したとき法学部のクラスに女子は3人しかいませんでした。そんな「ジャージ系の大学」も、女子学生が増えました。女子学生はもちろん、LGBT、障害者、留学生、いろんな考え方や価値観をもっている人たちが安心して学べるような環境づくりをしていきたい、そのためにキャンパス整備って、大きなチャンスなんです。法人も教学も執行部は大日方理事を除いてみんな男性で、そればかりが理由じゃないんでしょうけれど、なかなか分かってもらえないところもある。でも、このチャンスを逃したくないなあって思っています。

第28回 中央大学ホームカミングデー

2019年
9月29日(日)

今年は
後楽園キャンパス

理工学部創立70周年記念行事(2019年9月28日(土)開催)の翌日に、第28回中央大学ホームカミングデーを後楽園キャンパスで開催いたします。



CHARMI+G (Charmi+g) 提案 ～大学ランキングの脱皮を目指して～

CHARMI+G

白門58会支部長 内山 勢

「MARCH (マーチ)」。いま何かと話題の日産自動車の、かつての私の愛車マーチとは全くない関係はない。大学関係者や受験生には馴染みがあるだろう。

「早慶上理」に次ぐ、難関校をひとつくりにした名称である。明治大学、青山学院大学、立教大学、中央大学、法政大学の頭文字をとったものだ。

これに学習院大学を加えて、G-MARCH (ジーマーチ) と呼ぶ事もある。

中央大学関係者はこの名称にずっと忸怩たる思いをもってきた。「MARCH」は、呼称がしやすいように並べただけで、授業の充実やOBOGたちの活躍がこの順番でもないし、偏差値の順に並べたものでもない。だが、明治、青学、立教の次に中央が来ると、どうしても「なぜ四番目」なのかと。

どうしても、中大関係者には納得できないのである。

私はこのMARCHをどうにか出来ないかとずっと考えてきた。風呂に入っている時、いろいろ頭文字をいっていると、ふとひらめくものがあった。

「CHARM (チャーム)」という言葉が浮かんだ。「魅力、魔力」といった意味だが、今ひとつ、日本では馴染みがない。次に「CHARMING (チャーミング)」という言葉が浮かんだ。この言葉には皆馴染みがある。

「CHRAM」だと、中央、法政、立教、青学、明治の順になる。MARCHでは先頭だった明治が最後になり、四番目だった中央がトップ、お尻の法政が二番目になる。見事逆転するのである。それに「ING」。58会の同窓に相談すると、「IはICU (国際基督教大学)、G (学習院大) だろう」。すんなり決まった。Nは相当の大学がなく、近い将来の仲間 (N) 入りの意味を込め+ (プラス) とした。呼び方は「チャーミープラスG」あるいは「チャーミング」。

この提案には、反発、反対、納得しない人もいるだろう。だが、「CHARMI+G」は、「MARCH」という凝り固まった価値観から、解放する意味がある。

長年社会人をしていて思うのは、私の学生時代から、今でも、「早慶上理」「中央・明治・立教・青学・法政」「日東駒専」「大東亜帝国」(順不同) などとする大学序列があるのはそもそもおかしい。民間企業では30年以

上も同じランク付けはあり得ないし、意欲のある大学は積極果敢に革新に取り組んでいる。

個性のある優れた学生はいろいろな大学で育てている。地方にも優秀な学生がいるのは、地方の大学で講義していて実感する。

それなのに、今でも全ての大学が予備校の偏差値でランキングされ、講座や講師の充実は二の次になっている(それにとらわれない受験生がたくさんいるのも知っている)。

大学、受験生、親御さん、予備校、企業は、古い「ランク付け」のイメージからそろそろ脱皮した方がいい。企業も、新入社員採用で「学歴フィルター」などとする愚かなことはやめるべきだ。

「CHARMI+G」はそうした意味で、古い大学の序列意識の脱皮の提案である。中央大も安閑としてられないだろう。

チャーミングな誕生秘話

支部長「おい、G-MARCHじゃなくて、CHARMING。いいだろ」

事務局長「いいね。だけどINは、どうする?」

支部長「そう、それが問題だ」

事務局長「Iは国際基督教大に入ってもらいたい」

支部長「ぜひぜひ」

事務局長「Nは、南山あたりかな」

支部長「いい学校だけど、いきなり名古屋か」

事務局長「だって、あのNは、なしだろ」

支部長「なしなし」

事務局長「じゃあ、日本女子大。昔からお友達になりたかった」

支部長「日体大は?」

事務局長「どうしても、あのNをいれたくないんだな」

支部長「うん」

(長考)

支部長「この際、INを抜いて『CHARM ' G』はどう?」

事務局長「えっ、2つとも落ちちゃうの?」

……などなどの経緯を経ての「CHARMI+G」の誕生です。

2018年度総会報告

2018年度総会・暑気払い
8月18日(土) 高田馬場・アトリエ稽古馬

同期の近況は？

猛暑の続く今年、18日も当然“猛暑、酷暑”だろうと皆さんの体調が心配でしたが、そこまでの暑さではなく30度くらいの気温で、ほっとしました。

今回は8月18日開催ということで丁度、駿河台記念館は夏季休暇中。そこでレンタルスペース(高田馬場・アトリエ稽古馬)を借り、暑気払いのご馳走(というほどでは…)は、2軒隣りにある“スーパーオオゼキ”で調達。下見時、オオゼキ内に美登利寿司の店舗があるのを発見し、お寿司の盛り合わせを注文。当日お寿司を取りに行ったついでに、早めに来てくださった内山支部長、竹田さん、noracomいバイトで手伝ってくれた廣瀬君と私でおつまみやビール等々の買出しもして準備完了!(報告・柳)

レンタルスペースで持ち込み宴会

午後2時半 総会開始 司会・中川事務局長一

司会: 年1回総会をしてその報告を出すでと学員会から支部に5万円の補助が出ます。5万円のために5分我慢!(笑) 総会をささっと済ませて近況報告と、初めて参加の方は自己紹介。総会後すぐ暑気払いで、皆さん飲みながらお話しください。

内山支部長挨拶: イベント企画とか積極的にやる支部長じゃないんで、飲み会だけはしっかり参加することにしています。来年あたりから多分、少し暇になります。ほぼ皆同い年なんで時間があきますよね、皆さん積極的にご参加ください。

中川事務局長が前年度の活動・会計報告、本年度の活動予定・予算を読み上げ「質問等ありますか?」と聞いたら竹島さんから「会計報告の年が違ってますよ」と。3人の目で見ているのに一カ所2018年が2017年に。失礼しました。直します。m(。.)m 内容については拍手で承認でした。

一自己紹介と近況報告一

買ってきたおつまみ、お寿司、紙皿、プラカップ等をちゃちゃっとテーブルの上に並べ、暑気払い開始。

乾杯の発声は間澤さんに。

間澤さん: 58会の益々の発展を願って乾杯!

皆、拍手～。乾杯のビールで喉を潤し、近況報告及び自己紹

介へ。

司会: では、支部長から。

1) 内山支部長: 卒業後、毎日新聞に入社して今は竹橋の東京本社で働いています。今『キャンパス』という主にマスコミ志望の大学生に記事を書いてもらう紙面を担当しています。もう59なんであと1年で定年ですが、再雇用で5年くらいはまだ働きたいと思っています。一大学でも…… あ、宇都宮大学で地域メディア学を教えています。

司会: 若い子に囲まれて、羨ましい限りです。では、次に初参加の…。

2) 湊崎さん: 湊崎です。法学部出身で、英米法を研究してました。卒業後、三井信託銀行に入りずっと海外関係の仕事でした。今は調査部と言う所にいて色々研究をしています。あんまりお金にならない部署です。初めて来たので宜しくお願いします。あ、湊崎のミナトは大湊の湊です。

3) 竹田さん: 東洋史専攻でした。学生時代は探検部に半年(笑)。でも考古学研究会、囲碁部は4年間ちゃんといました。先日学生も交えた囲碁大会があつて後輩と話したんですが、部員が2人になったこともあつたようで存続が心配です。今は武蔵野大で非常勤で事務の仕事をしています。今後とも宜しくお願い致します。

4) 堀井さん: 堀井と申します。経済卒で、同好会では尺八やってて観光研究会にも入ってました。仕事は公務員から銀行を転々として今は一番ホットな仮想通貨のコンプライアンスを担当しています。二浪したので二か月前に還暦を迎え去年10月に孫も生まれて、愈々お爺さん!でも、アンチエイジングに励み、セカンドライフも頑張りたいので、これからも宜しくお願いします。

5) 荒井さん: 法学部政治の38組です。将棋部に入ったんですけど、授業に出られないことが分かって辞めました。バイトで家庭教師してて英語と数学を教えてたんですけど、数学教えるのが難しかった。誰でも受かるような高校だったんで受かりましたけど。(笑)

司会: 去年の総会に門田隆将氏が38組の人何人が連れて来て、そこで荒井さんが発見されたっていう。38組は38組で集まったんだよね。

6) 葛西さん: その38組、葛西です。学生の時はバトミントンの授業の手伝いしてました。バトミントン研究会と称して。今のヨネックスの会長なんかもいて。今でもその時の教授を囲む会やってます。司法書士で神田で不動産屋を20年以上、25階のマンション建てて一階に事務所をリニューアルオープン、纏なんか飾ってます。



7) 後藤さん：となりの関さんと中杉から一緒。卒業後オリンパスに入って今は子会社にいます。役職定年してあと2年弱勤めます。還暦前でそろそろ落ち着いて皆さんとお付き合いを楽しみたいです。宜しくお願いします。

8) 関さん：後藤さんに誘われて今年の新年会から参加しています。中杉1年C組から経済まで後藤さんと一緒です。いまは、化粧品原料の商社にいて部下のいない部長で、管理部門を1人でやっています。定年まで2年を切って今後どうしようかなあと。コピーライターやってる友達もいるので、今度58会に誘ってみます。

9) 間澤さん：経営学科卒です。間澤ってあんまりない苗字ですけど長野には数十軒あります。証券会社の財務で12年半、人事に移って20年。昨年から関連会社の不動産資産管理部です。来年定年で延長もありなんですけど、違うところで就職活動してみようかなと考えてます。

10) 福吉さん：初めて参加します福吉泰三です。幸福の福におみくじの吉。58会発起人募集に一番に手を挙げてその後何もしてません！すみません。53年産業経済入学58年卒です。鹿児島出身。親には申し訳ないと思いながら3年から殆ど学校行かず、教養科目の自然科学4単位足りなくて留年、ショックでした！多摩動物園駅で電車に乗るの辛かった！裏取引しときやよかったです！(笑)サラリーマンやってたんですが、50手前で独立して障碍福祉関係で会社作ったんです。だけど休眠中。4月に還暦…。今日出てきたのも自分を変えようと思って来ました。

11) 渡辺さん：初めましての方が多くんですけど渡辺幸之助と言います。地元の河口湖で中学校教員の後、校長4年目です。渡辺がクラスの半分の地域で先生にも渡辺姓が多いので幸之助先生と呼ばれてました。校長として赴任すると知り合いの先生は「幸之助先生」と呼びそうになり「幸…」まで言って「コウ、長先生」と呼ぶという。(笑) 中川君と同じクラスで4年間、色々刺激を受けました。デモに参加したり“機動隊が怖くて生協でカレーが食えるか”なんて書いた手刷りのピラを配ったり、中川君に会わなければしなかった経験です。校長職が面白いわけではないんですけど、教師という仕事は楽しいので再任用であと10年くらいは現場で国語を教えたいと思ってます。総会は初参加です。オールアウェイな気分でしたんですけど、皆さんの話を聞いて“同世代でこんなにピチピチした人達がいるこれからこのことを考えてる”ということが分かったので、情報交換できればと思います。宜しくお願いします。

12) 竹島さん：3年ぶりに参加です。去年178日、一昨年は175日海外で、中々来られなかった。来年5月還暦。今、後任の人に引き継ぎつつあるところで先月くらいから日本にいる期間が増えました。唯一の理工系出身でこれから理工の仲間にも声かけようと思ってます。学部長推薦で東芝に就職して3年前役職定年。今、系列会社で新規事業やれと言われてまだ現役です。60歳になって賃金7割カットで同じ仕事ってのも…という気もしますが、東芝の保険組合が利用できるのは魅力で。僕が行ってた海外って中国なんですけど、今日は内モンゴルの焼酎68度の白酒(パイチュウ)を持って来てます。後で嗜んで頂ければと思います。

13) 柳：東京競馬場の近所に住んでいて、近隣住民サービス企

画で6月に無料で競馬場の来賓室に行きました。競馬場は何回か行ったことがあるんですが馬券を買ったのは初めて。ピギナーズラックで100円が1,450円になりました。が、そのままお昼のエピフライ定食になりました！

14) 中川さん：10年くらい前、同窓会を作りましょうと大学から声をかけられた人に誘われたのがきっかけで58会の事務局やっています。その時、同期から南甲倶楽部を教えられ、そこから大学の広報関連を手伝い、4月返は学員時報の編集、今はHPの手伝いもしています。学生時代は文学会にいて、学術連盟や白門祭実行委員会をやったりしたんだけど、卒業したら大学とは決別と思っていた。でも卒業後20年くらいして文学部の50周年に呼ばれて。それから大学と関わるようになって。後輩が「OB会はどつぶり漬かると面白くない。OBや大学関係者には色んな人がいるから動物園を覗く感じで参加すると楽しい。」と言ってました。

一暑気払い宴会一

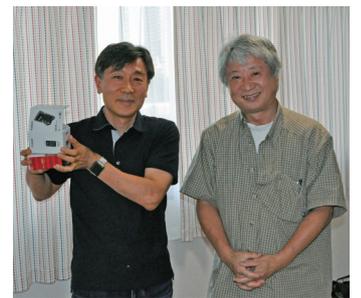
司会：では、これから持ち込み自慢。差し入れを持って写真撮りましょう。

赤ワイン、雪中梅、白酒、カツサンド等々、差し入れの品と差し入れてくれた方でツーショット(?)写真。68度の白酒を皆で少〜しづつ飲んでワイワイ「喉にカ〜つとくる!」「吐く息に火がつきそ〜。」「中国では、くいつと飲んで杯を逆にするんですよ。」と竹島さん。この蒸留酒の瓶のそばでタバコを吸うとお酒に火が点いてしまうそうです。ジャンケン大会、昨年のホームカミングデーで内山支部長が引き当てたデジカメ争奪戦。堀井さんが勝ち、賞品をゲットしました。遅れて参加の小原さんも加わり、楽しくおしゃべりして散会となりました。

今回はレンタルスペースで総会・暑気払いという初めての試みでした。ビルがそう大きくなかったので見つけにくかったという難点はありましたが、駅から近く割合広い部屋で台所もあって利用しやすかったです。

何より会費1000円(とカンパ!)で室料と飲食代がほぼ賄え、安上がりだったのが会計としては嬉しかったです。

次回はお知り合いをお誘いの上、ご参加、よろしくお願いします。



イベント報告 Facebook記事より 

“ブログ、ほぼ毎日更新!!”

2018/10/18

おはようございます。
箱根駅伝出場が決まりましたね。ホッとしました。当日、昭和記念公園で応援&結果確認してきました。58会とは違う白門支部の方々と応援に行ったのですが、例年より応援に集まった人が多かったようで立川駐屯地のスタート地点では選手が全く見えませんでした。スタートの号砲を聞いて駐屯地内から市街に出て行く選手達(全大学)を遠目に見送り、昭和記念公園内に移動。公園内にあと一步という所で係の学生さんに「ちょっとここで止まってください〜!」と言われストップ。前が空くまでかと思っていたら結局、全選手が通過するまで“足止め”。もう先頭はゴールしているというのに進めず…。「これで中大が予選落ちたら何の為に来たんだか分からない!ブンブン!」と

文句をいしつつスマホで速報を見て、どうやら10位くらいには入った模様と少〜し安堵しながら、発表のある『みんなの広場』の中大選手集合同所に向かう途中「中央大学8位」の放送が!拍手しながら選手を囲む輪に加わり藤原監督、野村部長の話を聴きました。そして、混み混みの立川は避け国分寺の居酒屋さんで「正月2日3日テレビが見られる!」と祝杯を上げて帰りました。写真も少しアップしておきます。

※ホームカミングデー籤引き賞品“すしざんまい食事券”希望者がいましたので、お譲りしました。後日58会口座に協力金を入金してください。(58会・会計)



▶ 維持会費納入のお願い

白門58会は入会金・会費無料で運営しています。会の運営費は、会員の任意の維持費と会報の広告、学員会本部からの支援金などによって賄っています。維持費は会報発送費のほか、白門支援金など学員会や大学への寄付に充てています。ご協力お願いします。

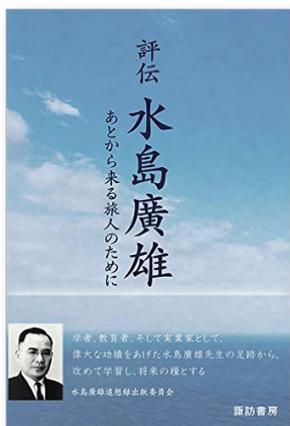
維持会費は1,000円以上、いくらでも結構です。

維持会費ご協力の方には、金額にかかわらず学員会グッズを謹呈します。同封の振り込み用紙をご利用ください。



振込先

ゆうちょ銀行 (武蔵府中郵便局)
00180-5-433209
白門58会 (ハクモンゴハチカイ)



全国有名書店、amazon等インターネット書店で発売中

評伝 水島廣雄 あとから来る旅人のために

学者、教育者、実業家として、偉大な功績をあげた水島廣雄先生の足跡から、改めて学習し、将来の糧とする (水島廣雄追想録出版委員会より)

編・著 水島廣雄追想録出版委員会 四六判 500 ページ 2,500 円+税

諏訪書房

発行所 株式会社ノラ・コミュニケーションズ
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-14-6
tel 03 (3204) 9401 fax 03 (3204) 9402